

# 東京都立千早高等学校 平成29年度 教科 公民科 科目 現代社会 年間授業計画

教科：公民科 科目：現代社会 単位数：2単位

対象学年組：HR11～HR16

使用教科書：（「最新現代社会 新訂版」（実教出版））

使用教材：（「新版テーマ別資料クローズアップ現代社会2017」（第一学習社））

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>4月</p> <p>第1部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題 1. 破壊される地球 (1) 2. 破壊される地球 (2) 3. 地球環境問題への取り組み</p> <p>第2章 資源・エネルギー問題 1. 限りある資源 2. エネルギーの開発と利用 3. 人口問題と食糧・水資源</p>	<p>・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。</p> <p>・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。とくにエネルギー問題にあっては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目させ、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきか考察させる。</p>	<p>・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</p>	<p>4</p>

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>5月</p> <p>第3章 生命科学と情報技術の課題  1. 人間の生死と生命科学  2. 遺伝情報と利用の諸課題  3. 高度情報化社会と情報倫理</p> <p>第2部 現代の社会と人間  1 青年期の自己の形成  第1章 自分らしく生きる  1. 青年期とは  2. 自己形成の課題(1)  3. 自己形成の課題(2)  4. 職業生活と社会参加</p>	<p>・人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。  ・情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためのモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきか考えさせる。</p> <p>・青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。  ・倫理や進路指導と関連させる。</p>	<p>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認  ・提出物による評価</p>	8

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>6月</p> <p>第2章 人間としてよく生きる  1. 哲学と人間  2. 宗教と人間  3. 科学と人間  4. 自由の実現  5. 人間と幸福  6. 人間性の回復と主体性の確立  7. 他者の尊重</p> <p>第3章 日本人としての自覚  1. 古代日本人の思想と仏教思想の展開  2. 外来思想の受容と日本の思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。</li> <li>・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> </ul>	8

	指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	2 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原則 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界の主な政治制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> <li>提出物による評価</li> </ul>	6

8月	指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	第2章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の成立 2. 日本国憲法の基本的性格 3. 自由に生きる権利 4. 平等に生きる権利 5. 社会権と参政権・請求権 6. 新しい人権 7. 人権の広がりと公共の福祉 8. 平和主義とわが国の安全 9. こんにちの防衛問題	・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。	・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認	6

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>10月</p> <p>第3章 日本の政治機構と政治参加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政治機構と国会</li> <li>2. 行政権と行政機能の拡大</li> <li>3. 公正な裁判の保障</li> <li>4. 地方自治と住民福祉</li> <li>5. 政党政治</li> <li>6. 選挙制度</li> <li>7. 世論と政治参加</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。</li> <li>・民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。</li> <li>・法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。</li> <li>・新聞などを教材として、身近な話題を示す。</li> <li>・政治・経済、日本史や世界史の学習内容と関連させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> <li>・提出物による評価</li> </ul>	8

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>11月</p> <p>3 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容 3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗 5. 現代の企業 6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉 8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割 10. 財政の役割と租税 11. 日本の財政の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。</li> <li>・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。</li> <li>・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させて説明する。</li> <li>・政治・経済の学習内容と関連させる。</li> </ul>	<p>・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</p>	<p>8</p>



指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>12月</p> <p>第2章 日本経済の特質と国民生活</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後復興から高度経済成長へ</li> <li>2. 安定成長からバブル経済へ</li> <li>3. 日本経済の課題</li> <li>4. 日本の中小企業</li> <li>5. 日本の農業</li> <li>6. 消費者問題</li> <li>7. 公害の防止と環境保全</li> <li>8. 労働問題と労働者の権利</li> <li>9. こんにちの労働問題</li> <li>10. 社会保障の役割</li> <li>11. 社会保障制度の課題</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけではなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づかせる。</li> <li>・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。</li> <li>・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> <li>・提出物による評価</li> </ul>	6

	指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	4 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の変化 1. 国際社会と国際法 2. 国際的な人権保障と国際政治 3. 国際連合と国際協力 4. 冷戦の成立とその崩壊 5. こんにちの国際政治 6. 人種・民族問題 7. 軍拡競争から軍縮へ 8. 国際平和と日本の役割	・主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考えさせる。  ・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考えさせる。	・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認	6

指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>2月</p> <p>第2章 国際経済の動向と国際協力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貿易と国際収支</li> <li>2. 外国為替市場のしくみ</li> <li>3. 第二次世界大戦後の国際経済</li> <li>4. 地域的経済統合の進展</li> <li>5. こんにちの国際経済</li> <li>6. 発展途上国の諸課題</li> <li>7. 経済協力と日本の役割</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。</li> <li>・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。</li> <li>・経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> </ul>	6

	指導内容	科目現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	第3部 共に生きる社会をめざして 1. WTO体制と発展途上国 2. 個人の自由と持続可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> <li>・提出物による評価</li> </ul>	4

# 東京都立千早高等学校 平成29年度 教科 公民 科目 政治・経済 年間授業計画

教科：公民 科目：政治・経済 単位数：2単位

対象学年組：第3学年A・B選択

使用教科書：（「政治・経済」（東京書籍））

使用教材：（「最新図説政経」（浜島書店））

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	第1章 現代の政治 1節 民主政治の基本原則 ①民主政治の成立 ②法の支配 ③基本的人権の確立 ④現代の民主政治 ⑤世界のおもな政治体制	○民主政治の基本原則について、その成り立ちを歴史的な観点から理解させる。 ○民主主義を支える「法の支配」の原理についてその意義を学び、実社会を規制する法の意義や機能について理解させる。 ○人権の意義と歴史的経緯および人権の国際化の現状について理解させる。 ○民主政治の本質について歴史的経緯や脆弱性、今日的な課題について理解させる。 ○民主政治の主たる形態である議院内閣制と大統領制について、その特徴を学ぶとともに、イスラム諸国の政治体制、および社会主義国の変遷や社会主義体制をとる国々の現状について理解させる。	・演習ノートプリントによる 基本基礎事項の確認	6

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	2節 日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法の制定と基本原理 ②基本的人権の保障 ③平和主義	○日本国憲法の成立過程と三大基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解させる。 ○日本国憲法が保障する基本的人権について，平等権，自由権，社会権などに関する，具体的な判例に則しながらその特徴と課題について理解させる。 ○日本国憲法の根本理念である平和主義について学習するとともに，現実の課題である日米安全保障条約にともなう沖縄の米軍基地の問題や自衛隊の現状などについて考察させる。	・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認 ・提出物による評価	10

指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>6月</p> <p>3節 日本の政治機構 ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治</p> <p>4節 現代政治の特質と課題 ①戦後政治と政党 ②選挙と政治意識 ③世論と政治参加</p>	<p>○国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解させる。また、二院制を採用している意義と特徴および衆議院の優越がどのように機能しているかについて学習し、日本の国会の権限と課題について考察させる。</p> <p>○戦前と戦後の内閣の違いを考察した上で、内閣の機能や内閣総理大臣の権限を理解させる。また、世界的な傾向である行政国家化と官僚制の問題を考え、あわせて日本の行政をめぐる諸課題と改革の動きについて理解させる。</p> <p>○司法のあり方について、戦前と現行憲法下の共通点と異なる点を考察し、三審制のしくみや違憲法令審査権の意義、検察審査会の役割などについて理解させる。また、国民の司法参加と司法改革の動きやさらなる課題について考察させる。</p> <p>○民主政治における地方自治の意義とあり方について理解するとともに、国と地方との関係や課題、住民の政治参加のしくみと意義について考察させる。</p> <p>○民主政治における政党や利益集団の意義と役割について考察し、あわせて日本における政党の歴史的経緯について理解させる。</p> <p>○民主政治における選挙の意義を理解し、そこから導き出される選挙の原則を考察させる。また、選挙制度の類型とそれぞれの特徴を学習するとともに、日本の選挙制度が抱える課題や問題点について考察させる。</p> <p>○世論の役割を考察し、世論形成に大きな影響を及ぼすマスメディアの現状とあり方について考察させる。また、国民の政治参加の新たな動きについて考察させる。</p>	<p>・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</p>	<p>10</p>

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	5節 現代の国際政治 ①国際関係と国際法 ②国際社会の組織化と変容 ③国際政治の動向 ④国際政治の課題 ⑤地球環境と資源・エネルギー問題 ⑥地球市民社会における日本の役割	<p>○国際社会の成立過程と主権国家と国際法の関係について学習し、国際社会の新たな要素として登場してきたNGOの役割や国際社会と個人との関係について考察させる。</p> <p>○国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解させる。また、その具体化である国際連合の成立過程やしくみ、役割と課題について理解させる。</p> <p>○第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し、冷戦の終結後もなぜ紛争などの問題が起こっているのかについても考察させる。</p> <p>○第二次世界大戦後の核軍拡競争の流れと非核化、軍縮の努力について学習し、地域紛争の現状と難民の問題について考察させる。</p> <p>○地球環境問題と資源・エネルギー問題についてその現状を理解し、環境保護の取り組みと課題について考察させる。</p> <p>○戦後の日本外交や安全保障の動きを理解し、今日の国際社会における日本の役割について考察させる。また、地球市民社会において個人として何ができるか、どう行動すべきかについて考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</li> <li>・提出物による評価</li> </ul>	6



	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月				

指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>9月</p> <p>第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立と発展 ②現代経済の特質</p> <p>2節 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環 ②生産のしくみと企業 ③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能</p>	<p>○現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯をへて成立しているのかを理解するとともに、資本主義経済の特徴や変遷および社会主義経済についても理解させる。 ○グローバル化や情報化が進む今日の資本主義経済の特徴について考察させる。</p> <p>○経済主体間の結びつきを考えながら、経済活動の循環について考察させる。 ○資本主義経済を支える企業活動とはどのようなものかを理解するとともに、企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的あり方について考察させる。 ○資本主義経済の核心をなしている市場の働きについて理解し、市場の失敗についても理解させる。 ○国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解し、物価や景気の変動が国民生活におよぼす影響についても考察させる。 ○金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解させる。また、金融の自由化など金融をめぐる環境の変化についても理解させる。 ○租税の意義や財政の基本的な役割を理解するとともに財政の課題と財政改革の必要性について考察させる。</p>	<p>・演習ノートプリントによる 基本基礎事項の確認</p>	<p>6</p>

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	<p>3節 日本経済の発展と産業構造の変化</p> <p>①経済再建から高度成長へ</p> <p>②オイル・ショック後の日本経済</p> <p>③日本経済の現状</p>	<p>○第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解させる。</p> <p>○オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し、バブル経済とその崩壊について考察させる。</p> <p>○「構造改革」の特徴と影響について考察し、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について考察させる。</p>	<p>・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認</p> <p>・提出物による評価</p>	8

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	4節 福祉社会と日本経済の課題 ①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食料問題 ④中小企業の現状と課題 ⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉	<p>○足尾銅山鉱毒事件以降、日本経済の発展とともに発生した公害問題と政府による公害への対策の動きについて学習し、環境問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要なかを考察させる。</p> <p>○消費者問題とは何か、またその背景に何があるかを考え、消費者主権の意義を考察させる。</p> <p>○日本農業の現状と農業政策の変遷を理解し、食料問題や日本農業の課題について考察させる。</p> <p>○中小企業の地位と役割について学習し、日本の中小企業の現状と課題について考察させる。</p> <p>○労働問題と労働運動の歴史的経緯について学習し、労働者の権利や労働組合の意義について考察させる。また、雇用環境の変化と現代の労働問題について理解させる。</p> <p>○社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について学習し、日本の社会保障制度の4つの柱について理解させる。</p>	・演習ノートプリントによる 基本基礎事項の確認	10

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	5節 国民経済と国際経済 ①貿易と国際収支 ②経済対立と国際協調	○貿易の意義，自由貿易の利点などについてリカードの比較生産費説をもとに理解します。また，国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを理解させる。 ○国際通貨体制やIMF-GATT体制の変遷について理解し，保護貿易主義の台頭と国際協調の動きについて考察させる。	・定期考査・演習ノートプリントによる基本基礎事項の確認 ・提出物による評価	8

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済	○南北問題や南南問題の歴史的な変遷と発展途上国の経済発展の状況および南北格差の是正について考察させる。 ○EUの成立過程と現状について理解し、ASEANやAPECなどさまざまな形態をとる地域的経済統合の動きについて考察させる。 ○グローバル化の進展にともなうさまざまな経済環境の変化について考え、日本の役割について考察させる。	・演習ノートプリントによる 基本基礎事項の確認	6

2月	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

3月	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数